

令和8年6月22日
釧路開発建設部

水質調査を通して川とふれあおう！

～地域の中学生と水生生物採取による水質調査を実施します～

釧路開発建設部では、釧路川に親しみ河川環境への関心を高めてもらうことを目的に「釧路川の水生生物調査（生き物観察会）」を標茶町立虹別中学校の協力を得て実施しますので、お知らせします。

この調査は、日本の主要な河川で実施している全国水生生物調査で、川の生きもの（カワゲラ類等）が生息しているかどうかで水質状況を簡易的に判定します。

本調査は昭和59年度から調査を続けており、調査結果は水生生物による水質調査結果として公表されており、釧路川の環境を把握する資料として活用されています。

取材を希望される方は当日、別紙の実施箇所までお越しください。

記

1. 日 時：令和8年6月30日（火）9時00分～12時00分
2. 開催場所：釧路川左岸 KP54.2（瀬文平橋上流）
3. 実施概要：別紙1参照
4. 参加者：標茶町立虹別中学校1・2年生 16人程度
5. その他：小雨決行（荒天時の場合は7月2日（火）に延期します）

※釧路川の水生生物調査の活動状況は、釧路開発建設部ホームページに掲載していますので御覧ください。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend00000074bd.html>

【問合せ先】国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 釧路河川事務所

副所長 こにしさとし 小西 聡 電話：0154-21-5500（内線 3621）

河川課 課長 あいざわてつや 相澤 哲也 電話：0154-21-5500（内線 3630）

釧路開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/ks/>



開催場所

詳細は別紙2

実施内容

調査項目

- ・川の状況調査
水温、川幅、流速、透視度等
- ・簡易水質調査
pH、COD、アンモニウム態窒素
リン酸態リン(低濃度)、DO
- ・水生生物調査
生物調査、生物観察
河川に生息する水生生物のうち、水質に係る指標
性が高い29種を指標生物として、採集した水生生
物から、4階級で水質の状況を判定します。
- ・魚類等の調査
魚類等採取、魚類等観察



水の温度は何度かな？

👉 ・天気、気温、水温、川幅、水深、流速、川底の状況、水の濁り、臭い、透視度などの記録をします。



この水生生物は何かな？

👉 ・水生生物の採取、観察をします。



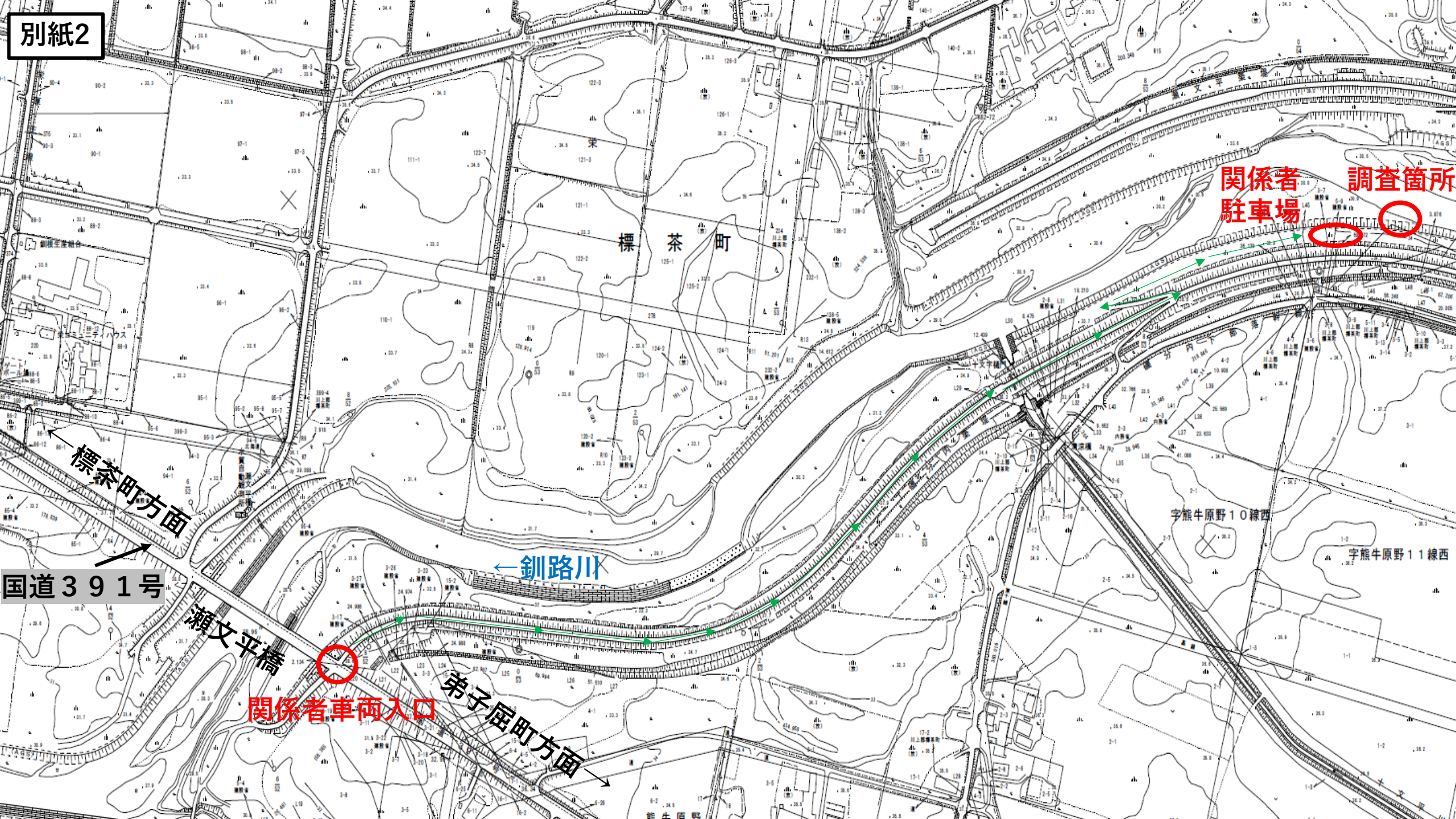
どんな魚がすんでいるのかな？

👉 ・魚類の採取、観察をします。



川の水はきれいなのかな？

👉 ・川の水のpH、COD、DO、アンモニウム態窒素、リン酸態リンなどをパックテストにより簡易調査をします。



【参考】水質階級と指標生物

釧路川では、きれいな水(水質階級Ⅰ)の指標生物(カワゲラ類)がよく見られます。
 ※赤囲いが釧路川で主に確認されているきれいな水の指標生物です。

きれいな水(水質階級Ⅰ)の指標生物

<p>カワゲラ類</p> <p>尾は2本で、胸の下面や腹の末端にふさ状のえらがあるものが多い。足のつめは2本。 炭流の石の間や、流れがゆるやかで落葉などがたまっているところにすんでいる。 ●まちがえやすい生物 カゲロウ類とまちがえやすいが、足のつめが2本あることで区別される。</p>	<p>カワゲラ類</p>	<p>種のはかりは実物の大きさの目安です。 *のついている生物は、よく似ていますが指標種(水質判定に使う水生生物)ではありません。</p> <p>ヨコエビ類</p> <p>体は左右に平たく、背中が丸まった小さなエビのような形をしている。 からの色はオレンジ色や茶褐色のものが多い。主に上流の石の下や水中にたまった落葉の間にすんでいることが多い。</p>
<p>ヒラタカゲロウ類</p> <p>足のつめは1本で、尾は長く2本。目が上についており、体全体が平たくカレイのような形。腹の両側に木の葉状の大きなえらがある。流れの速いところの石に体を密着させて生活している。 ●まちがえやすい生物 カワゲラ類とまちがえやすい。</p>	<p>ヒラタカゲロウ類</p>	<p>ヘビトンボ</p> <p>大きな強いアゴをもち、腹に糸のような横にのびる長い突起があり、その付け根にえらがある。肉食性で他の水生昆虫をえさにする。川底の石の下などにいる。</p>
<p>ナガレトビケラ類</p> <p>体は細長いイモムシ状で、足は3対。腹の色はうすい。頭と前胸が固くなっているが、他はやわらかい。 肉食の種類が多く、上流の水温の低い、きれいなところにいる。流れの速いところに多い。 幼虫は網や巣をつくらずに石の上や間を歩く。</p>	<p>ナガレトビケラ類</p>	<p>ブユ類</p> <p>体はこげ茶色で、腹の後方が太くなっている。尻に吸盤があり、流れの速い川底の石の表面や草にしっかりとついている。親になって人の血を吸うのは5種類くらいである。</p>
<p>ヤマトビケラ類</p> <p>体は太くイモムシ状で、足は3対で短い。体色は茶色で、頭と前胸は固くて茶色。砂つぶでできた籠の甲のような巣をかましているのすぐ分かる。 巣の下面には頭と尾部を出す穴がある。</p>	<p>ヤマトビケラ類</p>	<p>サワガニ</p> <p>甲羅の大きさは2~4cmで、色は赤みがかったものから青みがかったものまでいろいろあり、比較的浅いところの石の下にいる。 腹帯の太いのがメス、細いのがオス。本州で淡水域で一生涯を過ごすカニはこの種類だけである。 ●まちがえやすい生物 海に近い川では、海からモクスガニが上がってくるが、モクスガニは、ハサミに毛の葉がある。</p>
<p>アミカ類</p> <p>頭には2本の触角があり、ロボットのような形をしている。腹に6個の吸盤があり、その吸盤で急流の岩の上にとりついてる。</p>	<p>アミカ類</p>	<p>ナミウズムシ</p> <p>体の色は茶色、ねずみ色、黒色。体はやわらかく、切れやすい。また、体には筋(体節)がない。プラナリアともよばれ、石の上をすべるようにうはう。 ●まちがえやすい生物 ヒル類に似ているが、ヒル類は前後の端に吸盤があり、シャクトリムシのように動く。また、ナミウズムシに似た外来のウズムシが分布を広げている。</p>

表 水質階級と指標生物の関係

水質階級	種類数	指標生物
水質階級Ⅰ	10種類	アミカ類、ナミウズムシ、カワゲラ類、サワガニ、ナガレトビケラ類、ヒラタカゲロウ類、ブユ類、ヘビトンボ、ヤマトビケラ類、ヨコエビ類
水質階級Ⅱ	8種類	イシマキガイ、オオシマトビケラ、カワニナ類、ゲンジボタル、コオニヤンマ、コガタシマトビケラ類、ヒラタドロムシ類、ヤマトシジミ
水質階級Ⅲ	6種類	イソコツブムシ類、タニシ類、ニホンドロソコエビ、シマイシビル、ミズカマキリ、ミズムシ
水質階級Ⅳ	5種類	アメリカザリガニ、エラミミズ、サカマキガイ、ユスリカ類、チョウバエ類

表 水質階級

水質階級	川の水のよごれ
水質階級Ⅰ	きれいな水
水質階級Ⅱ	ややきれいな水
水質階級Ⅲ	きたない水
水質階級Ⅳ	とてもきたない水

国土交通省HP(川の生きものを見つけよう!)

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo04_hh_000237.html

環境省HP(全国水生生物調査のページ)

<https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/about/way/text1a.html>

天候と気温

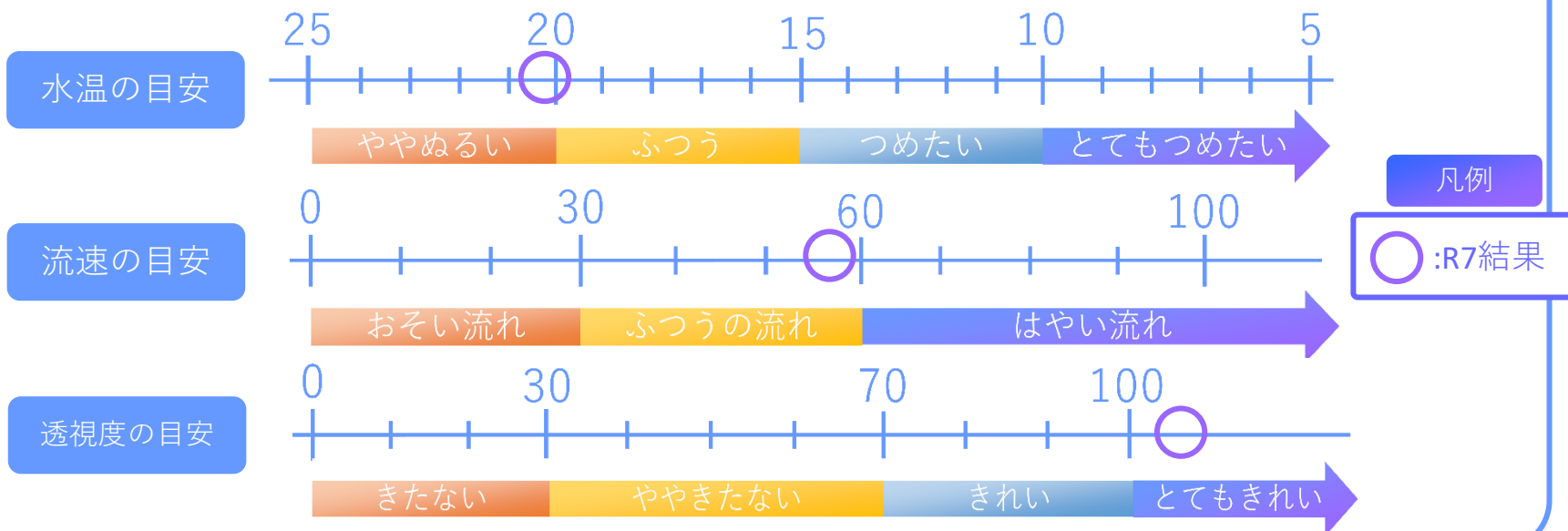
・場所：十文字樋門上流 ・時期：R7年7月8日(火) ・時刻：9:05~11:00

・天候： ・調査時気温：31°C

川の様子(水温・透視度・流速)

・水温：21°C ・透視度：106cm ・流速：57cm/s

※計測値は平均値を示す。



川の簡易水質調査

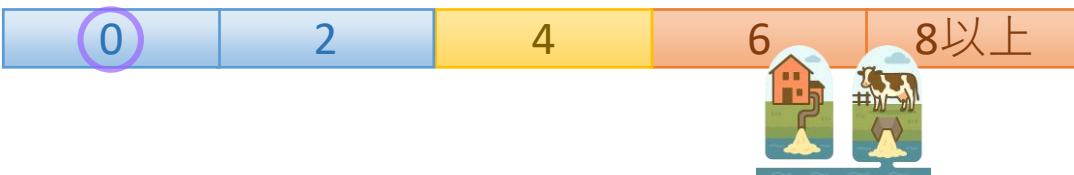
pH(水素イオン濃度)

水の酸性・中性・アルカリ性をしめす値



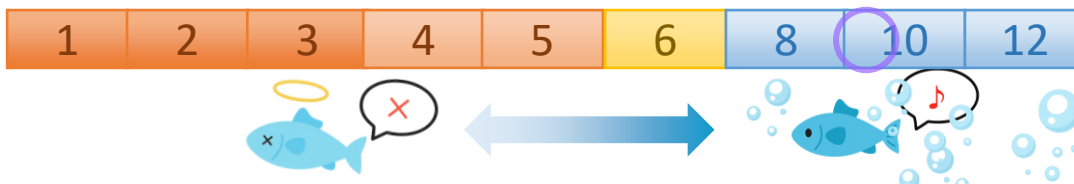
COD(化学的酸素要求量)

水中の有機物によるよごれの目安になるもの(mg/L)



DO(溶存酸素量)

水に溶けている酸素量(mg/L)



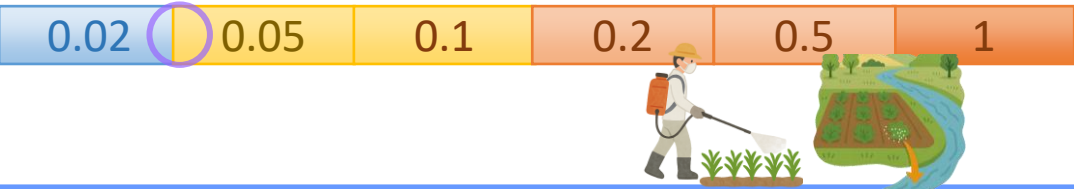
NH4-N(アンモニウム態窒素)

家畜の糞尿・肥料等に由来する窒素量(mg/L)



PO4-P(リン態リン)

生活排水・農薬・肥料等に由来するリンの量(mg/L)



R7計測値

- ・ pH : 8.0
- ・ COD : 0.0mg/L
- ・ DO : 9.7mg/L
- ・ NH4-N : 0.2mg/L
- ・ PO4-P : 0.04mg/L

※計測値は平均値を示す。

凡例

○ :R7結果

川の水の
きれい・きたないの
目安

大変きたない

きたない

少しきたない

きれい

まとめ

- ・ すべての項目で、おおむね「きれい」の範囲内の値を示している。
- ・ 川の水質がきれいに保たれている。

川の水生生物調査

きれいな水に生息する生物
(指標生物※)：階級Ⅰ)



カワゲラ類



ヒラタカゲロウ類



ナガレトビケラ類



ヤマトビケラ類



ブユ類



ヨコエビ類

凡例

○:R7確認種

まとめ

- きれいな水に生息する生物 (階級Ⅰ) が確認された。
- その他の水生生物も多数確認し、種の多様性があることも確認された。
- 指標生物の観点からも川の水質がきれいに保たれているのがわかる。

その他 今回調査で採取した水生生物
(指標生物※)ではない)

上流～中流の
きれいな水
などを好む



ヒゲナガガワトビケラ

上流～中流の
ややきれいな
水などを好む



ツツトビケラ類



チラカゲロウ



マダラカゲロウ類



ガガンボ



カクスイトビケラ

中流～下流の
多様な環境で生息



スジエビ



ウチダザリガニ

特定外来生物

Info

その他の生物は、河川の広い範囲に生息しており、多様な水質環境で確認できるもの

Notice

特定外来生物は生態系などに被害を及ぼすものに対し指定されるもの。法律(外来生物法)により飼育や生きたままの保管・運搬などが禁止されている。

豊かな生態系の確保（生き物のすみやすさ）の調査結果

今回調査の結果

評価項目と評価レベル		
DO (mg/L)	NH4-N (mg/L)	水生生物の生息
9.7	0.2	I きれいな水にすむ生物

Info

『豊かな生態系の確保』とは？

- 「今後の河川（湖沼）水質管理の指標及び調査（案）【改訂版】（令和6年8月・国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課）」に規定されている水質指標のひとつ。
- 「住民にわかりやすい水質指標」などを目的として評価項目・評価レベルが設定されている。

「豊かな生態系の確保」の評価レベル一覧

ランク	説明	評価項目と評価レベル		
		DO (mg/L)	NH4-N (mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7.0以上	0.2以下	I.きれいな水 ・カワゲラ ・ナガレトビケラ など
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5.0以上	0.5以下	II.ややきれいな水 ・コガタシマトビケラ ・オオシマトビケラ など
C	生物の生息・生育・繁殖環境として良好とはいえない	3.0以上	2.0以下	III.きたない水 ・ミズムシ ・ミズカマキリ など
D	生物の生息・生育・繁殖しにくい	3.0未満	2.0を超える	IV.とてもきたない水 ・ユスリカ類 ・チョウバエ類 など

凡例

○:R7結果

本日の調査箇所の評価は…ランク **A**